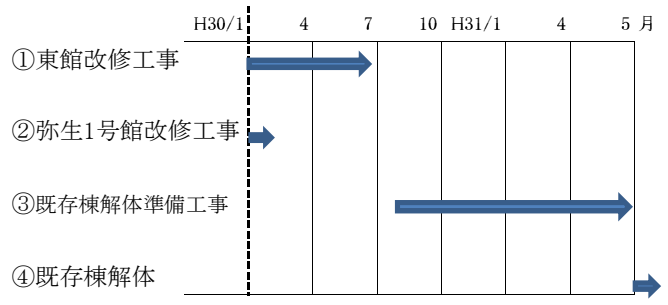
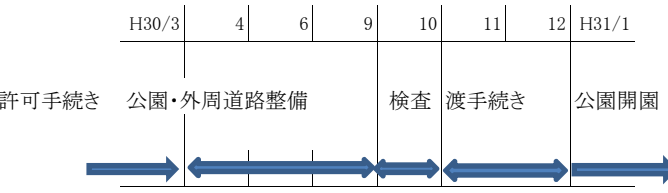
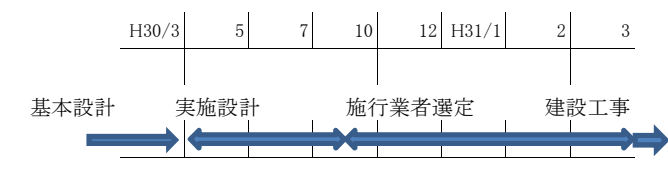


平成30年度 事業計画

法人本部

<p>基本方針</p>	<p>1.アクションプラン21:新病院建設プロジェクト →3期工事に向けた進捗管理</p> <p>2. 武蔵小杉キャンパス再開発プロジェクト</p> <p>3. 多摩永山病院再開発プロジェクト</p>	<p>4. 法人全体の財務収支改善</p> <p>5. 新経営体制における中長期事業計画の策定</p> <p>6. 物流業務可視化による医療材料費の圧縮</p>	<p>7. 印旛校地グラウンド整備</p> <p>8. 敷地内院外薬局の開局準備</p> <p>9.人材の育成及び開発</p>	<p>10.有効な広報活動</p> <p>11.医療系・健康科学系の学部学科新設に向けた準備</p>
<p>事業計画</p>	<p>1. AP21 2.5期工事の着実な進行</p>  <p>①東館改修工事</p> <p>②弥生1号館改修工事</p> <p>③既存棟解体準備工事</p> <p>④既存棟解体</p> <p>➢財務:リース導入による借入金残高の増加抑制</p> <p>➢既存棟:中央棟、3号館、9号館、プレハブA棟</p> <p>2. 武蔵小杉地区再開発</p> <p>①A街区:提供公園スケジュール</p>  <p>➢提供公園:H30秋整備完了、H30年内に中原区へ引渡し</p> <p>➢公園外周道路・歩道・緑地等の整備</p> <p>②B街区:新病院建設スケジュール</p>  <p>➢千駄木関係者ヒアリングをもとに現地関係者への設計確認会開催</p> <p>➢物流等、病院経営の合理化を想定した建築計画</p>	<p>③B街区:教育施設建設計画</p> <p>➢医療系、健康科学系学部・学科設置の新設に向けた検討</p> <p>3. 多摩永山病院再開発プロジェクト</p> <p>➢永山駅周辺拠点勉強会への参加</p> <p>4. 収支改善施策</p> <p>①医療収入の増加</p> <p>→「H30年度 事業活動収支差額」目標達成に向けた予算策定・執行管理の強化</p> <p>・各所属の事業計画・進捗状況フォロー</p> <p>②医療経費率の低減</p> <p>③補助金収入の確保</p> <p>→H30年度の補助金予算に沿った補助金申請誘導</p> <p>④寄付金収入の増加</p> <p>→「140周年記念募金」「千駄木地区再開発募金」展開中</p> <p>・教職員、同窓生、取引先企業へのアプローチ強化</p> <p>➢H30年度予算を上回る収支差額計上を目指す</p> <p>⑤円滑かつ低利な資金調達</p> <p>→借入金残高の増加抑制、金利条件を改善</p>	<p>5. 中長期事業計画の策定・検討</p> <p>・目的:収益力の強化と財務体質の改善</p> <p>・時期:H30年度の計画策定完成を目指す</p> <p>・法人本部、各所属との連携により計画策定を推進</p> <p>➢理事会への報告・承認を得つつ推進していく</p> <p>6. 物流可視化プロジェクト</p> <p>目的:①医療材料費適正化(無駄の排除、請求もれ防止等)</p> <p>施策:①「物流検討委員会」開催と物流業務の可視化</p> <p>平成30年度施策</p> <p>・付属病院のノウハウの伝播が終わり、各病院内で委員会及び実務会議が設置・開催され、定期的に検証されるようになったため引き続き検証作業を実施。</p> <p>・毎月の進捗報告に関して、四病院管財・資材課長連絡会報告することに変更。各病院の実務担当者は4半期毎に集まり報告会(7月、10月、1月、4月)</p> <p>7. 印旛校地グラウンド整備</p> <p>➢武蔵小杉地区再開発に伴う新丸子グラウンド利用停止により北総病院敷地内にグラウンド及び更衣室を整備する</p>	<p>8. 敷地内院外薬局の開局準備</p> <p>①千葉北総病院:早期開局に向けた協議、施設の建設</p> <p>②武蔵小杉病院:新病院開院時同時開局に向けた協議、計画</p> <p>③付属病院・多摩永山病院:敷地内院外薬局設置に向けた準備</p> <p>9. 人材の育成及び開発</p> <p>①看護師の採用方法</p> <p>➢採用人数の確保に留まらない付属4病院の未来を担う質の高い看護師を採用する</p> <p>➢医療提供の向上、離職率の低下を目指す</p> <p>②職員研修の実施</p> <p>➢目標の着実な達成と課題の解決能力の育成・向上を図る</p> <p>③看護学部への転換を視野に入れた教育職の充実</p> <p>10.有効な広報活動</p> <p>➢ホームページの充実、学内実績の広報等</p> <p>11.医療系・健康科学系の学部学科新設に向けた準備</p>

平成30年度 事業計画

区分	日本医科大学	日本獣医生命科学大学
基本理念	<p>●学 是： 克己殉公</p> <p>●教育理念： 愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の育成</p> <p>○「歴史ある私立医科大学」の特長を基盤に、最新の医学を教育・研究し、広く国際的な視野に立った見識と豊かな人間性を備えた医師、医学研究者の養成に努め、人々の健康の維持・増進、社会に貢献する</p>	<p>●学 是： 敬讓相和</p> <p>●教育理念： 愛と科学の心を有する質の高い獣医師と専門職及び研究者の育成</p> <p>○「Connect with the Future ～動物と人をつなぎ、都市と地方をつなぐ、獣医・生命科学の情報発信拠点～」達成へのスタート</p> <p>…昨年度より策定に取り組んできた中長期計画「ニチジュウミライ図」の完成に向け実行を開始する</p>
事業計画	<p>➢学長のリーダーシップの下、機動的・戦略的な大学運営の推進</p> <p>➢ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づく、体系的で充実した教育課程の編成・実施</p> <p>➢アドミッションポリシーを踏まえ、明確な目的意識を持つ意欲的で優れた人材の受入れ</p> <p>➢医学の発展に貢献する卓越した研究の推進と研究支援体制の充実強化</p> <p>➢社会の変化に対応した教育研究を展開するため、教育研究組織や事務組織の効果的な再編・整備</p> <p>➢学生生活全般に亘る、きめ細かな支援の実施</p> <p>➢国際的な交流、連携、協力活動の推進</p> <p>➢他大学や地域社会との連携を強化し、教育研究成果の社会への還元</p> <p>➢環境と安全に配慮したキャンパスの整備推進</p> <p>1. 重点事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な入学者選抜試験の実施 ・医学教育体制の充実強化 ・「がん専門医療人材養成プラン」推進 ・私立大学研究ブランディング事業申請 ・学生の能動的学習の促進 ・先端医学研究所の移転検討 ・大学間連携の拡充 ・教職員の資質・能力の向上 <p>2. 教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠管理端末活用、ITシステム(OSCE、電子カルテ)の維持 ・学習支援システムの活用を念頭においたカリキュラム構築 ・e-learningシステムの活用と定着(学部・大学院) ・大学院専攻の1専攻化によるアフターケア <p>3. 研究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費助成事業への申請(採択件数向上) ・研究の継続と活性化(認知症相談センター他) ・競争的研究資金の獲得による研究推進(AMED、科研費、受託) ・東京理科大学・早稲田大学との共同研究推進(AI、Robot研究) ・寄附講座(4件)、社会連携講座(2件)による研究推進 <p>4. 管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育研究費の配分変更(教育重視の配分) ・前期・後期入学試験の円滑な実施 <p>5. 学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生・在校生奨学事業予算の確保と継続 ・授業料減免による経済的支援 ・日本獣医生命科学大学との共同事業の推進 ・RA・TA採用による経済的支援 ・東医体副主管校運営本部経費の補助 ・学生のクラブ等活動に関する補助 <p>6. 国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の海外研修助成事業 <p>7. 社会貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高大連携による研修・見学の実施 ・産学連携の推進(AMED等の実施に伴う関連企業との研究推進) ・大学間連携の推進(東京理科大学との合同シンポジウム開催) ・新丸子運動場の開放 ・地域社会連携(子供向け講座の実施等) 	<p>1. 重点事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある教育と学生満足度の高い教育の実施 ・産官学、そして社会との連携・協力に基づく取組みの実質化 ・先端的・独創的な「食・環境・生命(One Health)」研究の実行 ・多様な個性を活かす、教職員力の向上 ・アットホームで豊かな心を培う学修環境の構築 ・動物医療センター等附属施設の充実と将来構想の検討 <p>2. 教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院教育の強化 - 第3次大学院教育施策大綱の計画書への取組み、e-Learningコンテンツの充実 ・特色ある学部教育としてのアクティブ・ラーニングや学外活動等の推進 ・インターンシップ制度の再構築 ・教育改善に向けたFD活動の推進・再構築 <p>3. 研究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある研究事業の推進(私立大学研究ブランディング事業) ・補助金を含む外部資金獲得に向けた戦略的取組み ・研究支援体制の充実(リサーチアシスタント制度検討等) ・研究に関するデータベースの構築と研究成果の発信 <p>4. 管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中長期計画及び平成30年度事業計画の実行支援 ・男女共同参画推進に基づき、働き方改革の検討 ・入試・広報体制の強化(アドミッション・オフィサーの配置等) ・危機管理体制と危機対応能力の向上 ・大学質保証に係る取組み強化(「質保証システム」の構築) ・ハラスメント防止、相談窓口体制の強化 ・第1校地及び第2校地の再開発計画の策定 ・教育研究組織等の検討及び教員評価制度の再構築 ・卒業生との連携強化策の検討 <p>5. 学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生相談体制の再構築 ・キャリア支援体制の強化(「新たな就職ガイダンス」の実施等) ・多様な学生への配慮の推進 ・学生の部活動・学外活動、学生発案による活動に対する支援 ・学生の海外派遣や留学生に対するフォローアップの推進 ・学修行動調査(満足度調査)の実施 <p>6. 社会貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各連携協定期間との連携協力体制の推進(群馬県、山梨県、北海道チクレン農業協同組合連合会等) ・野生動物教育研究機構の活動の推進 ・大学ブランド商品の開発等、企画・開発支援体制検討 ・新しい形の「地域交流懇親会」開催

平成30年度 事業計画

区分	付 属 病 院	武 蔵 小 杉 病 院	多 摩 永 山 病 院	千 葉 北 総 病 院		
基本方針	1. 経営健全化の実現 2. 「つくすこころ」をもって患者に選ばれる質の高い医療サービスの提供 3. 患者さん及び地域医療機関から信頼される病院づくり	1. 患者及び家族の意思を尊重し患者中心の医療を提供する 2. 他の医療機関、施設と連携し地域社会に貢献する 3. 安全で良質な医療を提供するため健全な経営基盤を確立する	1. 南多摩地域の基幹病院として地域医療に貢献 2. 病病・病診連携を推進し、「多摩地域の患者は多摩地域で治す」を実現すべく、質の高い医療を提供する	1. 各診療科・看護部・その他部署が診療において組織横断的協力体制を築くことで増収に繋げる 2. 印旛医療圏がん診療連携拠点病院に指定され、がん診療実績の向上を図るための諸施策を実施する 3. 内閣府よりJIHに推奨され、訪日外国人・渡航受診者・在日外国人の診療実績を集積する		
重点課題	>東館改修工事による病院経営への影響を最小限に留める >効率的な病床運用(目標利用率88.6%、VIP稼働率70%) >保険改訂に伴う新規項目の算定(入退院支援加算等) >外来・入院受付職員削減、パート・嘱託職員への切り替え >医師事務作業補助車加算1を50:1に変更申請 >外来全体の看護体制見直し >各種研修会・講習会の実施 >災害医療図上訓練の実施、BCPのブラッシュアップ >東京総合医療ネットワークの主導的役割 >電子カルテシステム・部門システムの更新	>中央手術室の運用強化 >紹介患者の獲得、入院患者数の確保 →近隣医療機関、新規開業医療機関への定期的訪問 >新病院開設の準備(医療機器の移設可否の選別等) >災害拠点病院機能の充実(災害マニュアルの更新等) >老朽化施設・設備の改修工事の実施 >医療安全、感染防止、保険診療に関する研修の実施 >神奈川DMAT、川崎DMATとしての活動継続	>病院機能評価受審 >稼働病床の増床 >退院調整の円滑化→回転率の向上 >災害備蓄品の管理徹底 >医師事務作業補助者加算2を40:1に変更申請 >DMAT隊員養成・研修事業への参加 >地域公開講座の開催 >老朽化施設の改修・更新工事の実施 >老朽化機器備品の更新	>ドクターヘリを最大限活用した高度急性期医療の展開 >がん診療連携拠点病院指定に伴う診療実績の向上 >JIH推奨に伴う新規患者の確保 >救命救急センター集中治療室改修工事 >産科のゾーニングによる分娩件数の増加 >電子カルテ運用支援業務の見直し >全職員を対象とした計画的な教育・研修の実施 >敷地内院外薬局の計画 >病院機能評価3rdG:Ver.2.0の獲得準備(更新)		
主要取組事項	患者数確保	入院	・室料差額の設定料金の検証と適正化 ・指導料・管理料の算定件数の向上 ・救急医療管理加算の算定維持	・病床利用率の向上 ・新入院患者の獲得	・稼働病床の増床	・加算要件に対応した診療報酬請求の徹底 ・総合入院体制加算の取得
		外来	・リハビリテーション室・化学療法室等の効率的運用 ・指導料・管理料の算定件数の向上 ・生理機能検査における技師枠の拡張	・紹介、逆紹介患者数(率)の上昇 ・特殊外来、専門外来の充実	・リハビリの拡充 ・薬剤管理指導料の算定増	・地域医療機関への訪問とPR、連携機能の充実 ・がん相談支援窓口を通じた化学療法患者数の増加 ・訪日外国人・渡航受診者・在日外国人の受診者増加
	救急患者受入	・休日・夜間の救急隊からの電話取次を看護師に交代 ・東京消防庁、本郷消防署との救急医療協議会の開催	・二次救急患者の応需率向上 ・救急応需状況を診療科別、医師別に把握	・夜間、休日の救急応需率向上 ・吐下血患者受け入れ支援事業に参画	・二次、三次救急患者受入れ強化 ・ドクターヘリ、ラピッドカーの効率的運用	
	医療連携	・紹介元、紹介先医療機関との連携の更なる強化 【目標】紹介率:80%、逆紹介率:60%	・患者紹介システムの更なる充実 【目標】紹介率:64%以上、逆紹介率:30%以上	・近隣地域への広報(講演会・診療案内) ・近隣医師からの紹介方法の簡素化	・医師連携支援センターの態勢強化 ・がん相談支援センターの組織整備	
	手術件数	・手術室の効率的運用 土曜日の枠を拡大 診療科間の枠の融通を推進	・中央手術室運用強化(偶数週土曜日における手術枠設置)	・手術室7室の効率的運用による手術件数の確保	・外来小手術室の拡充 →手術枠の確保及び手術件数の増加	
	外来検査・化学療法	・化学療法室の効率的な運用の確立 ・血液浄化療法センターの効率的な運用の確立 ・内視鏡センターの効率的な運用の確立	・皮膚病理診断室の委受託契約 →若手医師を中心に教育・学術活動、診断業務の実施	・外来化学療法ベッド数8台の有効活用	・がん相談支援窓口を通じた化学療法患者数の増加 ・腫瘍内科(化学療法科)新設の検討 ・PET検査実施の検討	
	医療経費削減	・薬価改定に伴う価格交渉・採用品目削減、後発医薬品導入 ・DPC超過疾患の削減、循環器分野の共同購入	・手術材料の効率化 ・入院患者に使用する薬品購入の削減	・物流検証委員会の立ち上げ ・看護師寮の運用見直し	・医療材料、医薬品費の削減(品目削減・後発品使用促進) ・保守費、清掃業務委託費など業務委託費の引き上げ防止	
	在院日数	・高度救命救急センター60床の効率的運用 ・NICU・GCUの安全かつ収益に繋がる運用	・在院日数の管理強化	・退院調整部門の強化	・外来医療の機能分化に伴う逆紹介の推進 【目標】紹介率60%、逆紹介率:50%以上)	

平成30年度 事業計画

区分	看護専門学校	健診医療センター	呼吸ケアクリニック	成田国際空港クリニック	腎クリニック	ワクチン療法研究施設
基本方針	<p>○豊かな人間性を備え、倫理的視点と科学的根拠に基づく思考力, 判断力, 責任ある行動がとれる看護師を育成する</p>	<p>○画像検査センターとして、臨床・研究に寄与し、特性を生かし、予防医療の充実のため健康診断、治験事業を実施</p>	<p>○収支差額安定的に確保</p>	<p>○安定的な収入基盤の構築</p>	<p>○付属病院, 他医療機関からの紹介患者獲得 ○保存期から外来診療を行い、透析導入 ○人工腎臓以外の血液浄化療法受入れ</p>	<p>○免疫療法の研究とSSM(丸山ワクチン)有償治験の基幹施設として業務を担う</p>
事業計画(主要な取組事項のみ表示)	<p>➢質の高い教育の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・自己評価の結果と学生の意見を踏まえた講義、臨地実習の充実 ・教育方法及び内容の点検と改善 <p>➢委員会・会議の再編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習の円滑な進行に向けて、会議・委員会等を充実させる <p>➢看護師国家試験対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の特徴を活かした教育・指導、主体的に学習できる学生の育成 <p>➢優秀な学生の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会、進路相談会、HP等 <p>➢学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付属四病院への就職、日本医科大学看護学生であることの意識付け ・感染症の予防、健康管理支援 <p>➢社会貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動参加支援 ・学校施設の開放 <p>➢施設、機器備品等の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化に伴う施設・備品への対応 	<p>➢PET検査数の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化PETカメラの新機種更新により検査処理(実施数)能力向上 <p>【目標】年間検査数:2割増加</p> <p>➢医療収入確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康保険検査の査定減少 <p>➢未収金対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診における前払いの促進 <p>➢医療連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネット広告、ポータルサイトの活用 <p>➢経費削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤製造費の削減 ・放射線管理契約の見直し <p>➢社会貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PET検査啓蒙講演など市民社会講座への参加 	<p>➢診療体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射線技師の勤務日数増 <p>➢医療収入確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な受診を促す案内状の送付 <p>➢未収金対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的な督促の実施 <p>➢保険請求査定への対処</p> <ul style="list-style-type: none"> ・査定状況を確認し、勤務者全員に周知・徹底、査定率向上を図る <p>➢医療体制整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師による患者指導の効率化 <p>➢医療連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付属病院への紹介・逆紹介 ・東京歯科大学との連携強化 <p>➢管理運営・社会貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療時間・繁忙を勘案した勤務シフト ・医療材料の見直し・契約価格の交渉 ・清掃業務委託契約の再検討 ・老朽化した機器・備品の改修・更新 ・同一フロアへの薬局の設置検討 ・来院患者など外部への情報提供 	<p>➢外来診療以外での増収</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診, 人間ドック受診者増加 <p>【目標】健診:2,500件 人間ドック:220件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成田市との健康診断契約の締結 <p>➢医療収入確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内視鏡検査数の増加【+50件】 <p>➢未収金対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自費患者の未収金対策 <p>➢サービスの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待ち時間対策強化 ・データ化推進、職員の接遇意識の向上 <p>➢医療体制・連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成田国際空港(株)との協力 ・付属4病院への紹介患者数の増加 <p>➢経費削減・社会貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療材料費の削減 ・航空機事故を想定した災害訓練 ・24時間365日体制の維持 ・電気・水道などの資源の無駄を排除 	<p>➢透析患者の獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付属病院の他に東大・医科歯科大・順天堂大との連携を強化 ・潰瘍性大腸炎等の血液浄化療法患者の受け入れ ・腹膜透析併用の患者受け入れ <p>➢未収金対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後日清算, 振込入金を避け当日精算 <p>➢医療体制整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した機器・電子カルテの更新 <p>➢医療連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付属病院, 他医療機関に対しても検査・リハビリ等で患者を紹介 <p>➢経費節減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェネリック医薬品の積極的使用 <p>➢社会貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都医療機関情報システム「ひまわり」へ医療機能情報登録 	<p>➢他診療施設, 研究機関との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きめ細かい情報提供・協議 <p>【目標】新規患者:1,600名</p> <p>➢カルテの電子化による管理効率化</p> <p>➢免疫療法としてのSSM有用性の理解促進, 免疫療法に関する啓蒙推進</p> <p>➢社会貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・免疫療法の理解, 普及の促進とがん治療への貢献 ・学会、講演会等による発表

平成30年度 事業計画

区分	先端医学研究所	国際交流センター	知的財産推進センター	ICT推進センター	研究統括センター
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ○先端医学研究推進による医学的発展への寄与、国際レベル若手研究者育成 ○開かれたラボとして広域な医学研究と臨床応用の研究開発 	<ul style="list-style-type: none"> ○国際交流の窓口として日本医科大学に貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本医科大学・日本獣医生命科学大学で生まれた研究成果を、速やかに社会に還元するために両大学の研究支援・知的財産権の創出支援を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ○本法人でのICT最適化を強く意識し、かつ情報ガバナンスの強化実現を目的にICT推進委員会が策定した方針・戦略を実行する 	<ul style="list-style-type: none"> ○法人の研究活動方針の企画・立案 ○法人内の研究実施体制構築 ○その他の研究活動支援
事業計画（主要な取組事項のみ表示）	<ul style="list-style-type: none"> ➢重点事項 <ul style="list-style-type: none"> ・細胞生物学部門のスタッフの採用 ・社会連携講座の設置(6月末目標) ・武蔵小杉病院移転に伴う当研究所の将来構想 ➢施設設備整備 <ul style="list-style-type: none"> ・動物実験室等共同利用施設の老朽化に対応し整備を図る ➢外部資金の獲得 <ul style="list-style-type: none"> ・公的研究費の獲得件数の増加 ・多方面の研究機関との受託研究展開 	<ul style="list-style-type: none"> ➢外国人留学生受入れ事業 <ul style="list-style-type: none"> ・主に国際交流会館関係の対応 ・受入れ部署への教育経費支給 ➢外国大学との学術交流事業 <ul style="list-style-type: none"> ・協定校からの訪問、協定校への訪問等の対応 ・協定締結 ➢医学部学生の短期留学事業 <ul style="list-style-type: none"> ・医学部学生国際交流助成金支給 ・医学部海外留学奨学金貸与 ➢外国人留学者研究会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・研究会、懇親会の運営 ➢外国人留学者への奨学金支給 ➢国際交流センターHP更新 ➢施設設備整備 <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流会館別館の外壁塗装工事等 ・国際交流会館本館の改修工事 	<ul style="list-style-type: none"> ➢知的財産に関する業務 <ul style="list-style-type: none"> ・啓発活動(メールマガジン発行) ・評価、維持活動 ・研究成果実用化活動(新技術説明会等) ➢産学官連携の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・2大学研究支援部署との連携 ・他研究機関との連携 ・契約書雛形の見直し、MTA雛形作成 ➢利益相反マネジメントに関する業務 <ul style="list-style-type: none"> ・啓発活動(メールマガジン発行) ・情報収集 ・定期的な利益相反マネジメント ・研究に関する利益相反マネジメント ・倫理委員会等との連携推進 ・研究統括センターへの業務移管 ➢管理運営・社会貢献 <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産審議委員会の運営 ・地域との連携(東京商工会議所他) ・学外からの相談対応技術相談対応 	<ul style="list-style-type: none"> ➢重点事項 <ul style="list-style-type: none"> ・次期大学ICT3か年計画の策定 ・医療情報システム中期計画検討 ・所属間システム統一検討 ➢管理運営 <ul style="list-style-type: none"> ・ICT推進委員会・小委員会の運営 ・ICT予算管理 ・学術ネットワーク対応・適正管理 ➢体制整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ICT環境整備(設備面の強化) ・各所属の案件支援推進 ➢経費削減 <ul style="list-style-type: none"> ・各所属案件の費用削減 	<ul style="list-style-type: none"> ➢中長期ビジョン <ul style="list-style-type: none"> ・研究管理, 臨床研究支援, 企画マネジメント部門の連携 ・学外の医療機関等との連携及び学内業務の体制整備 ➢大学間連携の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏ARコンソーシアムに参加 ➢臨床研修講習会の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会関係講習会(年2回) ➢特定臨床研究審査委員会の運営 ➢不正防止委員会の事務の移管 ➢COI業務の移管 ➢業務確立に向けた部門拡充の検討 ➢管理運営 <ul style="list-style-type: none"> ・3部門の事務担当者間会議企画 ・各部門の業務マニュアル作成 ・倫理教育の実施 ・大学研究ブランディング事業 ・研究成果有体物システムの運営 ・研究統括センター運営委員会 ・研究費の獲得促進・執行状況管理